

## 1. 題材名 「いろいろなひびきを味わおう」

教材 「トリトリオ」	オリジナル
「カノン」	作曲：パッヘルベル（鑑賞・多種類の演奏）
「3つの小品より第1楽章」	作曲：イベール（鑑賞）
「茶色の小びん」	作曲：ウィンナー（鑑賞）
「シェルトリンド」	メキシコ民謡（鑑賞）
「さくら」	日本古謡（鑑賞）

## 2. 題材の目標

- ・音色や響きの特徴を味わい、楽器の音色を生かして演奏の仕方を工夫することができるようにする。

## 3. 子どもと題材

## 子どもの実態

元気のよい子どもが多く、いろいろな場面でにぎやかに活動する姿が見られる。自分の思いをしっかりと持っている子どもが多いが、それを表現する手段を身につけていなかったり、積極的に表現しようとしたがらなかったりする子どももいる。音楽の学習では、歌うことが好きな子どもが多いが、学年が上がるにつれて積極的に歌いたがらない子どもも見られるようになった。また歌うことが好きで音程が確かでも、声量が十分でないために中心となって表現できないでいる子どももいる。そのため、どちらかと言えば器楽での活動を好む傾向にある。

6月に「ラバースコンチェルト」を使った、グループアンサンブルの活動を行った。少人数のアンサンブル活動で、楽器の選択や練習の多くの部分をグループに任せる形を取った。それまで少人数でのアンサンブルを行ったことはほとんどなかったが、今までになかったほど生き生きと活動することができた。これは自分たちが主体的に表現していこうとする意識が強かったためだと思われる。一方で楽器選択が表現と十分に結びついた形でできていなかったこと、演奏することで精一杯で細かい表現までは手がまわらなかったグループが多かったなど、問題点もみられた。

## 題材について

本題材は、学習指導要領の内容「A表現（3）イ 音色の特徴を生かして、旋律楽器及び打楽器を演奏すること。」「B鑑賞（1）ウ 楽器の音色及び人の声の特徴に気を付けて聴くこと。また、それらの音や声の重なりによる響きを味わって聴くこと。」に関わる学習である。ここでは演奏形態の違う同一曲を聴き、楽器の響きの違いを味わう。その活動を元に音色の特徴と組み合わせによる響きの違いに注目して楽器を選択し、合奏を行う。さらに音色を組み合わせる活動の経験を生かしながら、さまざまな楽器の組み合わせによる鑑賞を行う。中心となる合奏の楽器選択の活動を通して、音色と表現に関わる感覚を養い、楽器を選択する活動や合奏の表現に結びつけたいと考える。

主な教材である「トリトリオ」は、この授業のために作られたオリジナル曲である。3声の組み合わせによる曲であり、いろいろな楽器の組み合わせが考えられる。各声部が特徴的に作られており、楽器選択の手がかりになると思われる。この教材を使って、楽器の選択によって音の響きが変わってくる事を感じさせながら、音色と表現の関係を考えさせたい。その前段階として「カノン」では、同じ旋律でありながら音色の違いや演奏形態によって印象が変わることを捕えさせたい。

鑑賞の4曲には、いろいろな演奏形態の音楽を取り上げる。使われている楽器の音色や音が重なり合う響きを感じ取ると共に、いろいろなジャンルの音楽に触れて、音楽の世界に浸って欲しいと考えた。この活動が6年生後半の、日本の音楽の鑑賞につながっていくものと考えている。

## 指導について

本題材では今までなんとなく行ってきたと思われる楽器の選択を、より意識的に行わせる。もちろん演奏するのにふさわしい楽器の選び方は一つではないが、よりふさわしいものを選ぼうとする活動を通して、音色や楽器の特性についてより深く考えて欲しいと思う。多くの子どもが関わっていけるように、6人程度の小アンサンブルで活動を行う。読譜をあまり得意としていない子どもには、Midi機器や録音を使い、パート毎に自分の音分かるようなガイドを使い、イメージをつかませる。使用楽器については一度決めたもので固定化せず、グループで合わせながらバランスも考えて随時変更していくようにアドバイスする。

また、速度や強弱、音量などについてもグループで考え、意見を出し合いながら決めていく。この場合もなんとなくではなく、どうしてそうしたいのか、という事を考えながら決定させたい。初めての活動なので難しいとは思いますが、これまでの経験の積み重ねから考えていって欲しいと思う。この題材を通して表現することを、より音楽的な要素から考えることにより、音楽のすばらしさを感じて欲しいと思う。

## 4. 題材の評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽的な感受や表現の工夫	ウ表現の技能	エ鑑賞の能力
歌唱				
器楽				
創作				
鑑賞				
題材の評価規準	楽器の音や重なり合う響きに興味を持って、進んで聴いたり表現したりしようとしている。	音が重なり合う響きを感じ取って、楽器の組み合わせ方を工夫している。	重なり合う楽器の音色に気を付けて、合奏している。	演奏形態による響きの違いや曲の感じを感じ取ったり、それぞれのよさを味わったりしながら聴いている。

5. 学習計画 (6時間扱い・本時 2 / 6)

教材	時間	主な学習活動	教師のかかわり	具体的評価規準と【評価方法】	十分満足できると判断する視点	努力を要する子どもへの手立て
「カノン」		いろいろな演奏形態の「カノン」を聴いて、音色や演奏形態による雰囲気の違いを感じ取る。	・ 同じメロディーを聴かせ、楽器が違うとどのように聴いた感じが変わるかを考えさせながら聴かせる。	・ 楽器による響きの違いを感じ取っている。(イ) 【学習シート・発表】	・ 具体的な根拠を示して雰囲気を表現することができる。	友達の発表を聞いて参考にしながら、自分なりに感じとる様にアドバイスする。
	本時	音色の特徴や違い、特徴や組み合わせを考えて使う楽器を演奏しながらグループで考える。  自分のパートを練習し、グループで合わせる。	・ グループ活動でも一人一人の思いが出せるように声をかける。 ・ 楽器を選ぶための視点を与える。  ・ 技術的な問題が解決できるように、パートごとのコーナーを作り、グループ外の人からもアドバイスがもらえるようにする。	・ 楽器の音色や特性に気を付けて楽器を選ぼうとしている。(イ) 【観察・学習シート】  ・ グループのほかのパートとの重なりを気付けて演奏している。(ウ) 【観察・学習シート】	・ パートの重なり合いを考えて楽器を選んでいる。  ・ パートの重なり合いを考えて、全体の演奏をまとめている。	前時の活動を思い出させ、楽器の特徴とパートの特徴を示して一緒に考える。  技術的に困難な部分を寄り添いながら一緒に演奏し、練習する。
「3つの小品」他		グループで速度や強弱・音量などを考え、バランスよくまとめる。	・ まとめるための視点を与え、何を話し合えばいいかはっきりさせる。	・ 速度や強弱などを工夫して演奏している。(イ) 【観察・発表】	・ 速度や強弱などを他のパートとの関係を考えてアドバイスしている。	友達の考えた速度や強弱などの良さを、演奏を通して感じ取らせる。
		工夫したことをはっきりさせて、お互いに発表しあう。	・ 他のグループの良い所、工夫している所に注意させる。	・ 他のグループの良い所を聴こうとしている。(ア) 【学習カード・観察】	・ 視点をもとに発表を聴こうとしている。	自分たちの活動を振り返って工夫している点を聴くように促す。
		いろいろな分野の音楽を聴き、その響きの違いや特徴を感じ取りながら聴く。	・ 映像等も使い、楽器の違い、音色の違い、曲の雰囲気と音色との関係などを感じ取るために鑑賞の視点を与える。	・ 響きの違いや曲の特徴を感じ取ったり、よさを味わったりしながら聴いている。(エ) 【学習カード・観察】	・ 曲の雰囲気と音色との関係について考えながら聴いている。	友だちの発表を聞いて、響きや特徴について共に考える。

評価 (ア) 関心・意欲・態度 (イ) 音楽的な感受や表現の工夫 (ウ) 表現の技能 (エ) 鑑賞の能力

6 . 本時の実際 ( 3 / 7 )

ねらい ・ 楽器の音色や特性、組合わせに気を付けて楽器を選んでいる。

( 1 ) 学習過程

主な学習活動	教師の支援	具体的評価基準 【評価方法】
<p>1 . 「トリトリオ」の自分のパートを演奏する。</p> <p>2 . 今日の学習のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の担当するパートの流れを確認させる。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     ためしてガッテン・探せ！ すてきな音色の組合わせ                 </div>		
<p>3 . 音色の特徴や違い、特性や組合わせを考えて使う楽器を演奏しながら考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時につかんだ音色の違いによる雰囲気の違いを意識して楽器選びをするように促す。</li> <li>始めのフレーズだけを使い、音の響きを確認させてみる事を確認する。</li> <li>グループで演奏する楽器を考えるが、一人一人の思いや考えを大切にするように声かけをする。</li> <li>一つの組合わせを決めたら、実際に演奏をしてみて、感じを記録させる。</li> <li>組合わせを固定せずにいろいろと試してみ、良さや問題点を意識させながら楽器選びをさせる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     楽器の音色や特性に気を付けて楽器を選ぼうとしている。(イ)                      【観察・学習シート】                 </div>
<p>4 . 中間発表を行い、お互いのよさに気づく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特徴的な選び方をしているいくつかのグループを選んで発表させる。</li> <li>聴く視点を与えながら、良さを見つけながら聴くことができるように支援する。</li> <li>今日の時点でのグループの楽器の組み合わせを決めさせる。</li> </ul>	十分満足できると判断する視点 ・ パート決めに積極的に関わる。 ・ パートの重なり合いを考えて楽器を選んでいる。
<p>5 . 今日の振り返りと次時のたしかめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音色に気を付けた楽器選びという視点について、今日の振り返りを学習シートに書くことをアドバイスする。</li> </ul>	努力を要する子どもへの手立て 前時の活動を思い出させ、楽器の特徴とパートの特徴を示して一緒に考える。